

評価者	文化財部長	桝淵 規彰
-----	-------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実
目標とすべきまちの姿	文化財保護体制の強化により、文化財指定件数が増え、文化財の適切な保存が図られています。発掘調査体制が強化され、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行が円滑に行われています。文化財資料がデータベース化され、出土品、歴史資料等の整理、保管がなされています。保管する文化財は展示施設等で一般に公開されるとともに、文化財の調査・研究の成果は、学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信されています。郷土芸能大会などによる情報発信により、伝統芸能の保護・技術の伝承が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	15.9%	平成29年度(2017年度)	18.1%	平成28年度(2016年度)	18.8%
	平成27年度(2015年度)	18.6%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.1%	0.8%	0.0%
ちょうどよい	14.4%	38.0%	0.3%
効果不十分	10.1%	2.3%	7.6%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.9%	0.9%	0.5%
ちょうどよい	11.4%	32.9%	1.2%
効果不十分	11.6%	3.2%	7.9%

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	5.2%	0.4%	0.2%
ちょうどよい	9.2%	39.6%	1.1%
効果不十分	9.9%	4.3%	6.7%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.0%	0.7%	0.0%
ちょうどよい	11.4%	33.6%	1.0%
効果不十分	11.0%	3.7%	8.0%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	17.2%	53.1%	9.1%	20.7%
平成29年度(2017年度)	19.5%	44.1%	12.3%	24.1%
平成28年度(2016年度)	16.0%	51.5%	8.9%	23.6%
平成27年度(2015年度)	18.7%	45.1%	11.4%	24.7%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進する。また、あわせて文化財の調査・研究の成果を広く公開するための資料のデジタル化を進める。(文財-04)
 文化財の保存・修理については、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していき、文化財の状況の的確な把握に努める。(文財-05)
 鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に、出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘調査現場の見学や鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館との連携などを通じて教育や学習の機会を設けていく。(文財-06)
 市の直営文化施設である鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館の連携を強化し、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発に努める。(文財-07,08)
 鎌倉歴史文化交流館では、周辺住民に配慮した開館時間等について、住民のご理解をいただきながら、日曜・祝日開館への取り組みを進めていく。(文財-08)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理の促進することで、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行を円滑に行う。(文財-04)
 文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していくことで、文化財の適切な保護を図る。(文財-05)
 鎌倉国宝館では、収蔵資料を良好な環境の下で保存管理し、まちの歴史資料等の保存、管理に寄与している。(文財-07)
 鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に、出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘現場見学などを通じて教育や学習の機会を設けていく。学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信する。(文財-06)
 鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館では、展覧会の開催や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携により、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発を行い、市民等の利用に供する施設として情報発信を行う。(文財-07、文財-08)
 鎌倉歴史文化交流館を日曜・祝日に開館し、市民へ情報発信する機会を増やす。(文財-08)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年 度)	平成30年度 (2018年 度)	令和元年度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
文財-04	文化財調査・整備事業	177,489	171,889	208,946	245,560	4.0	4.0	無	a	A
文財-05	文化財保存・修理助成事業	50,604	59,759	62,400	72,419	1.5	2.5	無	b	B
文財-06	公開宣伝事業	1,524	1,514	9,388	18,710	1.0	2.0	無	b	B
文財-07	国宝館管理運営事業	67,905	85,494	95,252	89,630	3.5	2.5	無	b	B
文財-08	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業	57,601	71,940	84,948	100,300	3.5	3.5	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

報告書未刊行資料の縮減について、業務の一部を外部に委託して28件分の出土資料の整理・報告書の作成を行った結果、未刊行分は残り27件となった。(文財-04)
 過去の発掘調査時に撮影した写真資料約100万枚のうち、約30万枚(約30%)をデジタル化した。(文財-04)
 指定文化財の保存修理事業を優先度の高いものから適切に実施できるよう、国や県の補助金の活用を視野に入れ、文化財の所有者と密に連携をとりながら、文化財の状況の把握に努め、事業を進めた。(文財-05)
 鎌倉国宝館では、免震型展示ケース1台を導入し、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努めた。(文財-07)
 鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館では、広報、SNS等において館の情報発信を行うとともに、講座等の様々な催しを実施し、市民等の学びの場として積極的にPRを行った。(文財-07,08)
 鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館で利用可能な年間パスポートを市内の小中学校に配布した。(文財-07,08)
 学芸員等の研究成果を収録した、鎌倉市教育委員会文化財部調査研究紀要を刊行した。(文財-07,08)
 鎌倉市教育委員会と学芸員等とが情報を共有し、学芸員の自由活発な調査研究とその成果発表等の活動を保障するなど、学芸員等の業務の公益性を高め、その活動の推進に寄与するため、鎌倉市教育委員会学芸員等学芸員倫理基準を策定した。(文財-07,08)
 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想検討委員会を設置した。(文財-07,08)

【実施できなかった事業とその理由等】

発掘調査までの待機期間については、平成29年度(2017年度)までは減少傾向であったが、平成30年度(2018年度)については、件数の増加により、待機期間が増えた。(文財-04)
 鎌倉歴史文化交流館では、日曜・祝日開館等を実施するため、近隣住民との意見交換会を実施したが、理解を得ることが出来なかった。(文財-08)

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

・発掘調査後に報告書が未刊行となっていた調査報告書の作成業務の一部を外部に委託することで、未刊行報告書件数を縮減することができた。(文財-04)
 ・発掘調査費補助金の創設により、平成29年度までは、発掘調査開始までの待機期間縮減が図られ、「目標とすべきまちの姿」の実現に近づいたが、平成30年度は件数が増加し、待機期間も増加した。市民生活への影響を一層減らすため、調査・研究体制の強化について引き続き検討を進める必要があり、「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取り組みを行っていく必要がある。(文財-04)
 ・文化財の保存・修理について、事業実施により成果は一定程度出ているが、文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じた保存・修理を継続的に支援していく必要がある。多種多様な市内文化財全体の状況把握は非常に難しく、更なる努力が必要であり、妥当(適切)な取り組みを行っていく必要がある。(文財-05)
 ・文化財の保存・修理について、文化財所有者へ適切な受益者負担を求めているため、効率性は適切であった。(文財-05)
 ・『鎌倉の文化財』の発行、『鎌倉市文化財年報』の刊行など、市内文化財の周知・啓発の機会を増やしたが十分とは言えず、また、収蔵施設に保管されたまま活用できていない出土遺物等も多く存在しているため、さらなる創意工夫や活動の充実が必要であり、有効性については、改善の余地がある。(文財-06)
 ・鎌倉国宝館において、免震型展示ケース1台を導入し、文化財がより確実に保存できる体制が整えられた。(文財-07)
 ・鎌倉国宝館では、特別展開連講座や出張講座といった一般向けの公開講座を実施したほか、市内の小中高等学校の観覧時にも特別解説等を実施することで、学校教育との連携ができたため、公平性は適切であった。(文財-07)
 ・鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館は、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする施設であることから、公正・公平な収支を優先事項とすることは困難であるが、維持運営のための必要な対価として、観覧料導入等の受益者負担を求めており、今後も引き続き歳入確保に向けた取り組みを実施する必要がある。(文財-07, 08)
 ・鎌倉歴史文化交流館の日曜祝日等開館については、平成30年(2018年)9月に開催した住民との意見交換会において、近隣住民から多数の反対意見があったため、実施できなかった。引き続き、近隣住民に理解を得られるよう取り組みを進める必要がある。(文財-08)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

・平成27年度(2015年度)以降、発掘調査報告書未刊行の件数は縮減しているが、さらなる縮減が求められているところであり、引き続き工夫が必要である。(文財-04)

・発掘調査実施の待機期間は、平成29年度(2017年度)まで減少傾向であったが、平成30年度(2018年度)中に発生した待機期間は9か月となった。消費税増税前の個人住宅購入の増加によるものと考えられるが、引き続き動向を見守り、適切な対応を図る必要がある(文財-04)

・発掘調査により調査資料は毎年増加しており、資料整理の迅速化について、引き続き検討を進める。(文財-04)

・文化財の修理を適切に行っていくための方針を明確化していく。(文財-05)

・今後予定されている大規模な修理や、新規要望の案件があることから、個別の文化財の状況把握に努め、予算措置や工程等について調整していく。(文財-05)

・出土遺物の展示環境が十分ではないため、展示場所の拡充を検討するとともに、再整理済み出土遺物のさらなる活用についても、検討していく。また、毎年開催している遺跡調査・研究発表会は専門性がやや高いため、市民が鎌倉の文化財により親しみが持てるよう、説明を工夫していくとともに、遺跡調査速報展に加えて新たな取り組みの実施を検討していく。(文財-06)

・鎌倉国宝館では、引き続き文化財を適切な状態で保存し、一般公開を行うとともに、学校教育・生涯学習事業との連携に努める。また、免震設備の導入を引き続き進めることで、文化財のより確実な保存を図る。

・鎌倉歴史文化交流館では、市民等により親しまれる魅力的な施設となるよう、展覧会や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携などに努めていく。

(7)令和元年度(2019年度)の目標

発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進する。あわせて文化財の情報を広く公開していくため資料のデジタル化を引き続き進める。(文財-04)

文化財の保存・修理については、緊急性・重要性に応じた適切な保存修理を継続していけるよう、引き続き、文化財の状況の的確な把握に努める。(文財-05)

郷土芸能大会に来場する外国人が多くなっているため、英語等での情報発信を進めていくとともに、市内中学生の出演機会を設けるなど、若年層への普及啓発に努める。(文財-06)

市の直営文化施設である鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館の連携を強化し、鎌倉の文化財の保存・活用、普及啓発に努める。(文財-07,08)

鎌倉歴史文化交流館では、周辺住民にも誇れる施設となるよう魅力的な展示やイベントを実施し、住民のご理解をいただけるよう、来館者が増える取り組みを進めていく。(文財-08)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図るとともに、報告書未刊行の調査資料の整理を促進することで、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行を円滑に行う。(文財-04)

文化財の状況を的確に把握しつつ、緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に支援していくことで、文化財の適切な保護を図る。(文財-05)

郷土芸能大会の情報を日本語だけでなく英語等で発信するとともに、市内中学生の出演機会を設けるなど若年層への啓発を進めることで、伝統芸能の保護・技術の伝承を図る。

鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館では、収蔵資料を適切に整理、保管し、展覧会の開催や各種イベントの積極的な実施、学校教育等との連携により、鎌倉の文化財を市民等へ情報発信する。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業							
指標の内容	発掘調査報告書の未刊行件数					単位	件	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率=目標値/実績値	
発掘調査実施後、未報告となっている資料の縮減が課題であるため。		目標値	-	-	65	45.0	33.0	22.0		
		実績値	-	77	63	55.0	27.0			
		達成率	-	-	103.2%	81.8%	122.2%			
整理番号	文財-04	事業名	文化財調査・整備事業							
指標の内容	発掘調査までの待機期間					単位	月	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率=目標値/実績値	
待機期間の縮減が課題であるため。		目標値	-	6.0	6.0	6.0	6.0	0		
		実績値	11.0	8.0	4.0	6.0	9.0			
		達成率	-	75.0%	150.0%	100.0%	66.7%			
整理番号	文財-05	事業名	文化財保存・修理助成事業							
指標の内容	保存修理件数					単位	件	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で後世に引き継ぐことができるため。		目標値	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	11.0		
		実績値	12.0	11.0	12.0	11.0	10.0			
		達成率	171.4%	137.5%	133.3%	110.0%	90.9%			
整理番号	文財-06	事業名	公開宣伝事業							
指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会来場者数					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
来場者が多いほど、より多くの市民等が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。		目標値	280.0	280.0	280.0	200.0	200.0	200.0		
		実績値	280.0	280.0	120.0	140.0	150.0			
		達成率	100.0%	100.0%	42.9%	70.0%	75.0%			
整理番号	文財-07	事業名	国宝館管理運営事業							
指標の内容	入館者数					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
当該事業へのニーズや反響を把握するため。		目標値	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0	70,000.0		
		実績値	30,875.0	50,585.0	44,961.0	47,282.0	48,907.0			
		達成率	44.1%	72.3%	64.2%	67.5%	69.9%			
整理番号	文財-08	事業名	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業							
指標の内容	入館者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
周辺環境に配慮しながら、適切な運営を行う上で、施設の有効性を把握するため。		目標値	-	-	-	60,000	45,000	45,000		
		実績値	-	-	-	23,238	19,000			
		達成率	-	-	-	38.7%	42.2%			

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・入館者数が周辺環境に配慮しながらとはいえ目標値の38.7%に留まっている。広報、SNS等において、積極的に施設のPRなど市民へ情報として発信をこころがけてほしい。日曜祝日等閉館などへの今後の対応が望まれる。

・赤字が続く経営は好ましくなく、鎌倉を知る機関として有効機能させる必要がある。

・歴史文化交流館は利用が増えることで、赤字が発生した場合の補填ができるのではないかと。近隣住民には無料で招待するなど、優先的な利用してもらおうことで理解を求めるとも考えるべき。

・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」とい意見が多いこと等、効率性の面で検討が必要。発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図る必要がある。

・「目標とすべきまちの姿」にある文化財のデータベース化を急ぐこと。

指摘への対応、コメント等

広報、SNS等において、積極的に施設のPRを行うなど、情報発信を行っていますが、より一層の情報発信を行っていきたいと考えています。日曜祝日等閉館については、平成30年(2018年)9月に行われた住民との意見交換会で、直近の住民から多数の反対意見があったため、すぐには実施できないと考えていますが、時間をかけて理解を得られるよう取組を進めてまいります。

博物館は教育施設であり、収益を最優先事項とすることはできませんが、来館者増に向けた取組をはじめ、販売や観覧料等を含めた効果的な歳入確保の取組を進めることも必要であると認識しています。

日曜・祝日閉館に向けては、近隣住民にも誇れる施設となる様な魅力的な展示やイベントを実施し、理解を得られるよう取り組んでまいります。また、博物館は教育施設であり、収益を最優先事項とすることはできませんが、販売や観覧料等を含めた効果的な歳入確保の取組を進めることも必要であると認識しています。

発掘調査待機期間は、発掘調査補助金制度の活用により、平成29年度(2017年度)まで減少傾向でしたが、平成30年度(2018年度)中に発生した待機期間は9か月となりました。消費税増税前の個人住宅購入の増加によるものと考えており、今後調査件数の推移と予算とのバランスを勘案し、必要な対応を検討していきます。

文化財のデータベース化の一環として、平成30年度(2018年度)に過去の発掘調査時に撮影した写真資料のデジタル化を行いました(約30万カット)。また、鎌倉国宝館においては収蔵資料のデータベース化に向けた準備を進めており、今後の作業の進捗に合わせ、ホームページ上での収蔵品の公開等を進めていきたいと考えています。

提言

・鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館は、教育、学術及び文化の発展に寄与することが目的とたたくに考えるのではなく、観光地でもあるので、目玉として、もっと広くの人に鎌倉の文化を知ってもらうよう発信する。

・29年度開館した鎌倉歴史文化交流館については指標にある「入館者数」のみならず、開館初年度における「積極的な運営」の具体的な実施内容やその成果・問題点について記載すべきである。

・データベース化すると他の様残な事業の計画等が立てやすくなる。また、様々な指標が作りやすくなるので、早急に構築すべき。

・教育や授業として何回利用されたか等についても指標として頂きたい。

提言に対するコメント等

施設のPRや情報発信を進めることも必要であると認識しており、SNSやWeb、外国語対応、学校教育との連携など、多角的な発信を進めていきたいと考えています。

鎌倉歴史文化交流館については、開館初年度平成29年度(2017年度)に当初予定していなかった特別展の実施や、「VR永福寺」等、様々な普及啓発事業を積極的に実施しました。ご提言いただいた事項を含め、どのような指標が望ましいか検討していきます。

文化財のデータベース化の一環として、平成30年度(2018年度)に過去の発掘調査時に撮影した写真資料のデジタル化を行いました(約30万カット)。また、鎌倉国宝館においては、収蔵資料のデータベース化に向けた準備を進めています。

鎌倉歴史文化交流館事業については、学校対応回数を指標化していますが、鎌倉国宝館管理運営事業においても指標化を検討します。また、両館とも、様々な事業を通じて学校教育・生涯学習事業との連携に努めていきたいと考えています。

質問

・「目標とすべきまちの姿」にある「データベース化」は進んでいるのか？

・指標としている「未報告調査件数」とは何か、また「保存修理件数」「入館者数」の目標件数はどのように定めているのか。

・「発掘調査までの待機期間」は減少させる事が目標なのに、「目標値」が一定なのはなぜか？

質問に対する回答

文化財のデータベース化の一環として、平成30年度(2018年度)に過去の発掘調査時に撮影した写真資料のデジタル化を行いました(約30万カット)。また、鎌倉国宝館においては収蔵資料のデータベース化に向けた準備を進めており、今後の作業の進捗に合わせ、ホームページ上での収蔵品の公開等を進めていきたいと考えています。

・「未報告調査件数」とは、現地での発掘調査終了後、発掘調査報告書の刊行まで至っていない調査の件数である。

・「保存修理件数」の目標件数は、平成25年度(2013年度)の実績値を基本として増やしていくこととし、さらに個々の文化財の状況を見極め、緊急度に応じた適切な事業を行うことが可能な件数として設定した。

・鎌倉国宝館の「入館者数」の目標件数は、目標設定の前年に6万人以上の来館者数を記録したことから、その数字から一日平均40人＝年間約1万人増を目指し、7万人の来館者数を目標数値としました。

・鎌倉歴史文化交流館の「入館者数」の想定数は、開館前、専門業者に調査を委託し、提示された6万人を目標数値にしていましたが、初年度来館者数が想定を下回ったため、4万5千人に修正しました。

発掘調査の実施の確定から実施までには、届出等事務処理や、調査に係る機材等の手配にかかる期間が必要です。標準的な期間として最大で6か月程度かかることから、その数値を目標としています。

文化財の保存、調査・研究、情報の充実

評価できるところ

- ・平成29年5月に鎌倉歴史文化交流館が開館した。施設としては優れた場所、建築である。内容も理解しやすいものであるが、さらに内容の充実、魅力を増す工夫をお願いしたい。遺跡調査研究発表会や文化財めぐりを開催などにより、市民、子どもたちへの歴史的環境への興味、教育を増進していることはよい取組であると考えられる。
- ・出土遺物の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘現場見学などを通じて教育や学習の機会を設けている。学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信はよい。
- ・業務の一部を外部委託などにより出土資料の整理・報告書の刊行を行った結果、市直営で行ったものと合わせ、28件分刊行した。
- ・「取組の評価」において妥当性・有効性を「要改善」としているが、その要因と課題についての認識が明確である。今後の取組に期待する。
- ・一つ一つ、地道に取組を実施している事が分かる。
- ・写真資料のデジタル化。
- ・鎌倉国宝館および鎌倉歴史文化交流館で利用可能な年間パスポートを市内の小中学校へ配布したこと。

評価の内訳					委員会の評価
取組	2	1		5	
効果	1	1	-	6	-

課題

- ・入館者数の目標値を平成29年60,000から平成30年5,000人へ下げている。達成率は見かけ上、上昇しているが、入場者数自体は平成29年より減少しているのが実態。周辺環境に配慮しながらとはいえ工夫が十分でないのではないかと懸念。
- ・赤字が続く経営は好ましくなく、鎌倉を知る機関として有効機能させる必要がある。
- ・業務の一部を外部委託などにより出土資料の整理・報告書の刊行を行った結果、市直営で行ったものと合わせ、28件分刊行した。発掘調査実施後、未報告となっている資料の縮減は課題である。
- ・鎌倉歴史文化交流館の入館者数が増えていない。もっと来館者数を増やす工夫が必要。

提言

- ・歴史文化交流館の入館者数が周辺環境に配慮しながらとはいえ目標値の38.7%に留まっている。広報、SNS等において、積極的に施設のPRなど市民へ情報として発信をこころがけてほしい。日曜祝日等閉館などへの今後の対応が望まれる。
- ・歴史文化交流館は利用者が増えることで、赤字が発生した場合の補填ができるのではないかと懸念。近隣住民には無料で招待するなど、優先的な利用してもらうことで理解を求めるとも考えるべき。
- ・「歴史文化交流館」などについて、土日を開館することで、住民にメリットがあるような提案をすべき。(警備員の配置、定期的な清掃、無料招待券の配布など)
- ・指標「発掘調査報告書未刊行数」「発掘調査待機期間」の達成率の計算式(目標値/実績値)は一般的には分かりにくい。目標・実績の考え方を変更することにより分かりやすくしたい。
- ・文化財の状況を正確に把握することで、適切な修理を円滑に進める必要がある。緊急性・重要性に応じて保存修理を継続的に行っていくことが望まれる。
- ・発掘調査までの待機時間の短縮が必要である。

質問

- ・事業評価結果で「文化財調査・整備事業」の今後の方向性を「事業内容」が、a評価(事業内容を見直す)、「予算規模A(予算規模を拡大する)」としているが、その根拠は何か？
- ・「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想検討委員会を設置」とあるが、設置の目的・メンバー構成は？既存の組織との重複はないか？
- ・市内小中学生に歴史文化交流館の年間パスポート配布とあるが 利用率どのくらい？一般の方にも年間パスポート発売することは考えているのか？